

みんなの2020調査 パラリンピック版

- ファクトブック -

- 2018年3月調査 -



可能性がたくさん詰まったパラリンピック。 世間の本音に迫る。

たくさんの興奮と感動を与えてくれるパラリンピック。特に2018年平昌パラリンピックでは、アルペンスキー女子で金を含めた5つのメダルを獲得した村岡桃佳選手、スノーボード男子で金メダルを取った成田緑夢選手など、各選手の活躍が注目されました。2020年東京パラリンピックでも、新たなスターが誕生することでしょう。

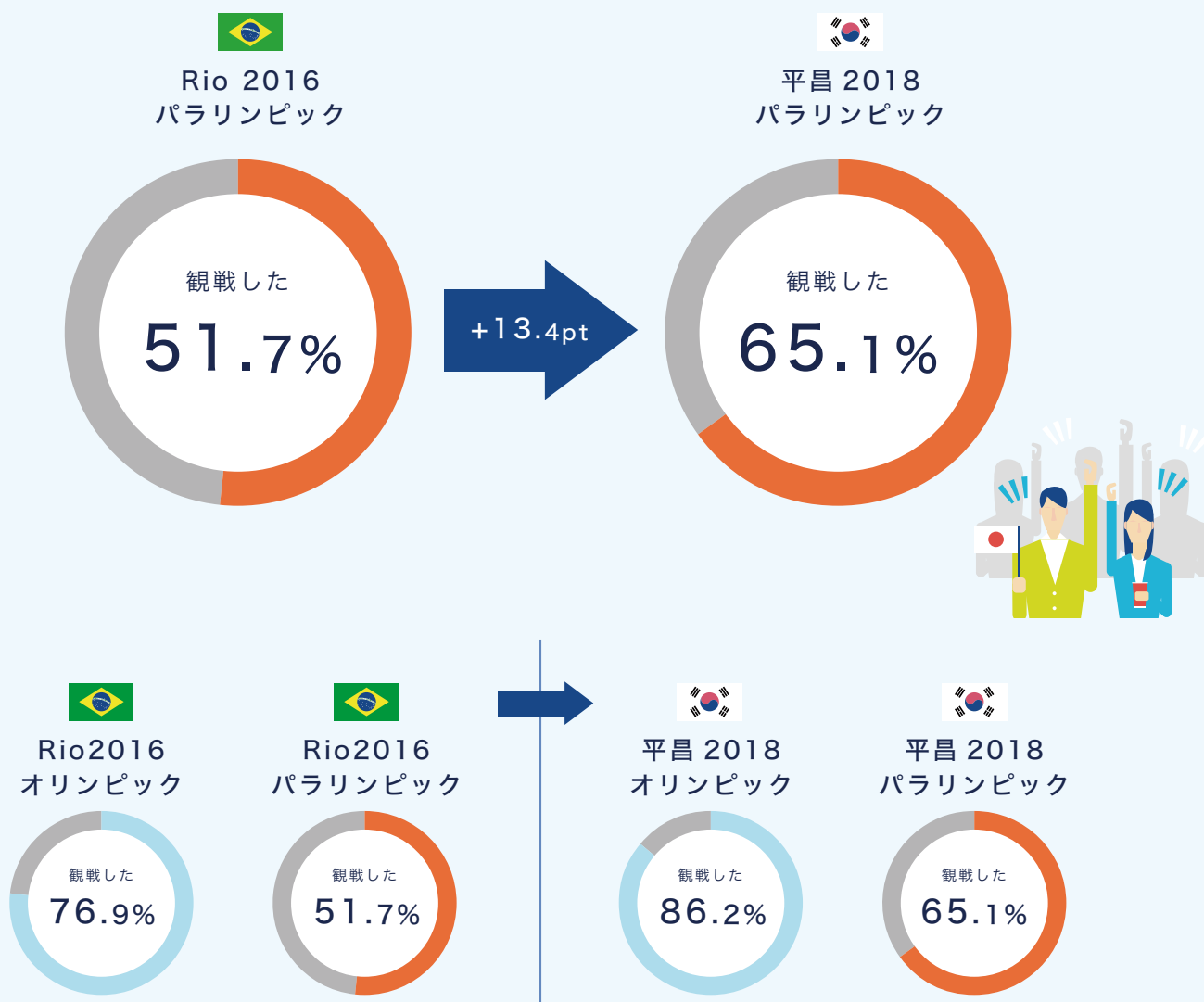
電通2020プロデュースセンターでは、全国の15～69歳の男女3000人を対象に「パラリンピックに関する意識調査」を2018年3月に実施。パラリンピックに対する人々の期待やイメージ、課題などを探りました。みなさまの今後の活動に、ぜひお役立てください。

1 パラリンピックの観戦者は増加中。

2016年リオパラリンピックを現地やテレビなどで観戦した人は51.7%、2018年平昌パラリンピックを観戦した人は65.1%でした。2年間で観戦率が13.4ポイント上がっています。世間のパラリンピックへの注目度は、着実に上がってきているようです。



次のオリンピック・パラリンピックを現地もしくはTV番組、デジタル媒体等でどの程度観戦しましたか？



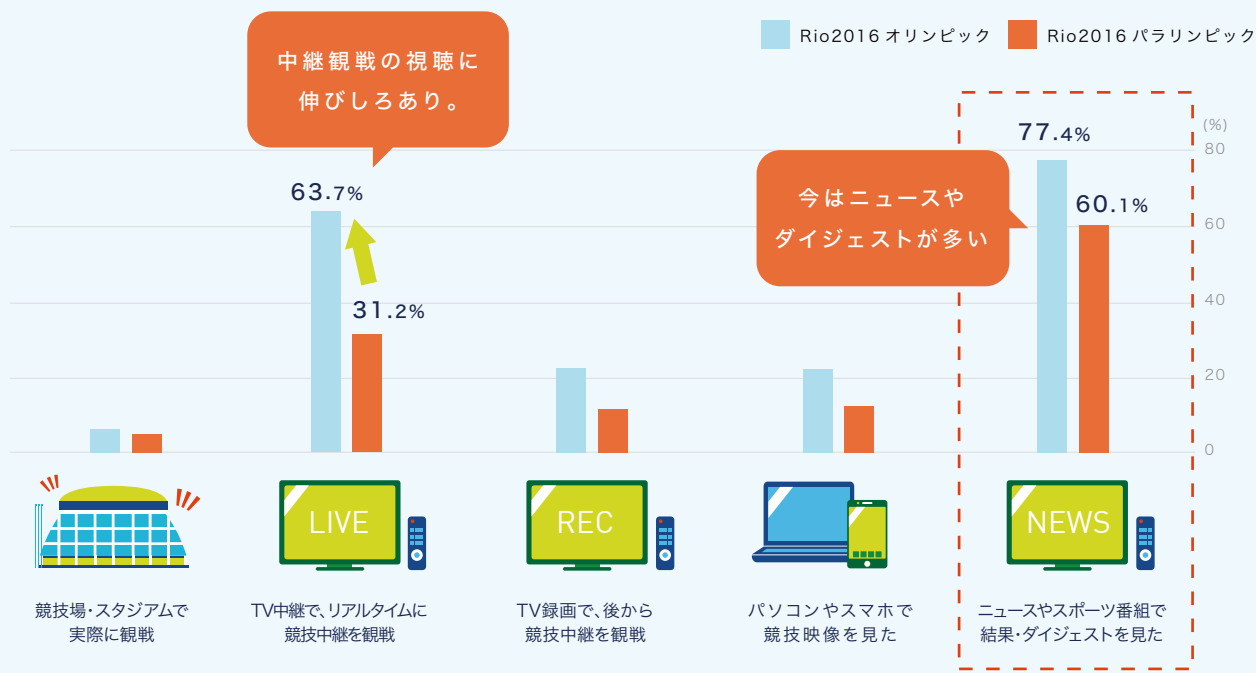
2

パラリンピックの観戦、 現状はニュースやダイジェストがメイン。

2016年リオパラリンピックの、日本からの観戦方法を聞いたところ、テレビなどでリアルタイム観戦した人は31.2%でした。これは、オリンピックと比べると約半分。そして、「現地・中継などでは見ていないが、ニュースやダイジェスト番組を見た」という人が、約6割。2020年東京パラリンピックでは、実際に競技場に足を運んだり、競技中継をリアルタイムに観たりできるチャンスがあります。オリンピックと同水準まで増える伸びしろあり、とも見えます。

Q

2016年リオパラリンピックをどのように観戦しましたか？



3

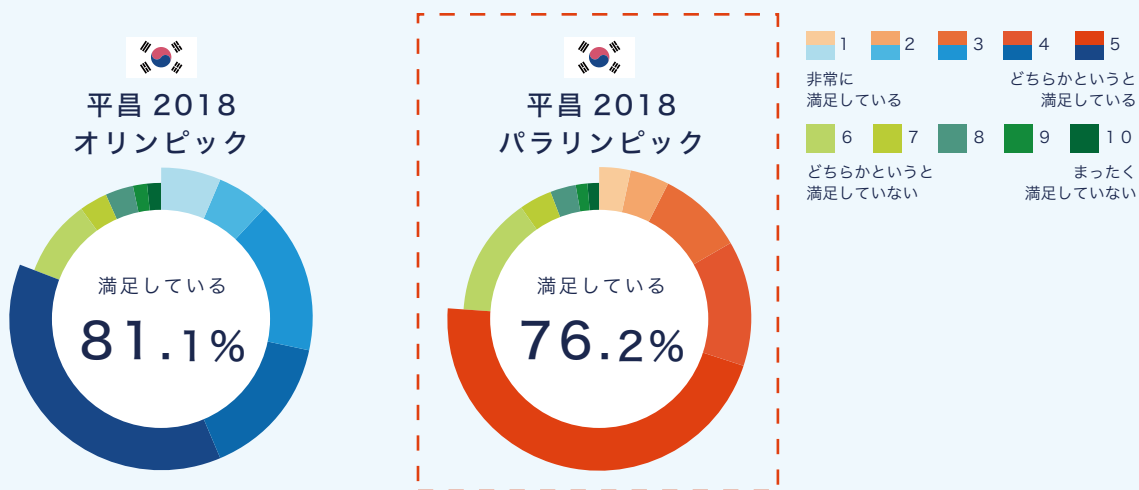
オリンピックと同等の約8割が、 パラリンピックを観戦して満足している。

観戦した人たちのうち、オリンピックは81.1%、パラリンピックでは76.2%が「観戦して満足している」と答えました。どちらの大会でも、観戦した人の8割近くが満足しているとのことで、観戦率に差はあるものの、観戦後の満足度には、差がありませんでした。

Q

2018年平昌オリンピック・パラリンピックをご覧になって良かったですか？

満足度を10段階でお答えください。



4

パラリンピックの楽しみ方は千差万別。 オリンピックよりも幅広い楽しみ方。

2016年平昌パラリンピックの観戦満足度が高い方にその理由を聞くと、「選手の姿に感動した」という意見に加えて、「解説が詳しくわかりやすかった」「番組での取り上げ方が良かった」など、取り上げたメディアや番組について高評価な意見が多くありました。

また、オリンピックの満足理由は、大きく3つ（①メディア露出量の差 ②選手・競技の認知度の差 ③日本人選手の活躍）に大別されるのに対して、パラリンピックではさまざまなストーリーが満足理由として回答されました。パラリンピックは、オリンピックよりもさまざまな観戦の楽しみ方がありそうです。



平昌2018オリンピック・パラリンピックの満足度が高いとお答えになった方にお伺いします。満足できた理由をお答えください。



平昌2018パラリンピックの満足理由

選手の姿、メディアの取り上げ方など多様な答え。



諦めずに頑張っている姿を見て自分も頑張らないといけないという影響を受けたから。(広島県・女性10代)



障がいを感じさせない選手たちの奮闘に大きな感動を覚えたり、**スポーツの素晴らしさや魅力**を感じた。(愛知県・男性20代)



パラリンピックの方が番組での選手の取り上げ方が良かった。オリンピックは特定の選手ばかりで偏った放送が多かった。(石川県・女性50代)



見たことの無い競技が見られて勉強になったから。(愛知県・女性20代)



知らなかった競技について、**解説が詳しく分かりやすかった。**(東京都・男性40代)



平昌2018オリンピックの満足理由

大きくは、メディア露出度・選手の認知度・選手の活躍という3つのテーマ。

メディア露出量の差



パラリンピックのTV放送が、圧倒的に少なかったが、**オリンピックの放送は、ほぼLIVEで視聴できた。**(東京都・女性50代)



パラリンピック競技はリアルタイムの中継がすくなく感じた。やっぱりリアルで見ないと気分的に盛り上がらない。(東京都・女性50代)

選手・競技の認知度の差



オリンピックの方が全然知名度があってメジャーな感じがするから。また、報道等の情報で知っている選手も何人かいるので、**まだオリンピックの方が馴染みがある**から。(東京都・男性50代)



日本人選手の活躍

日本人選手の**活躍がたくさんの競技で見られた。**(宮城県・女性50代)

5 パラリンピックは社会変革のきっかけとして捉えられている。

オリンピック・パラリンピックのイメージ・価値を比較しました。「社会制度や人々の生活が変わるきっかけとなる（29.3%）」、「人間の可能性を拓げる（28.8%）」、「努力の尊さを知る（24.6%）」といった項目で、パラリンピックの方が高いスコアを獲得。社会制度や世間の意識が変わるきっかけとなることに、期待している人が多いようです。また、「教育的な、学びがある」「共感するストーリーがある」「新しい出会い・発見がある」「成熟している、大人の」「共感できる」などの項目は、オリンピック・パラリンピック共に当てはまると答える人が60%近くいました。どちらも、子どもの教育に良い影響を与える、と考えている人が多いようです。

パラリンピックへの見方・考えで一番多かったのは「障がいのある方にとって希望（目標）になる」で72.6%。「スポーツとしての魅力が伝わっている」が53.0%、「国民の意識向上に貢献する」が52.6%でした。世の中や人々の意識など、変化のきっかけとなるイメージが、やはり大きいようです。

Q

オリンピック・パラリンピックのイメージ・価値として、次のようなものがどちらにあてはまるのか、お答えください。

1

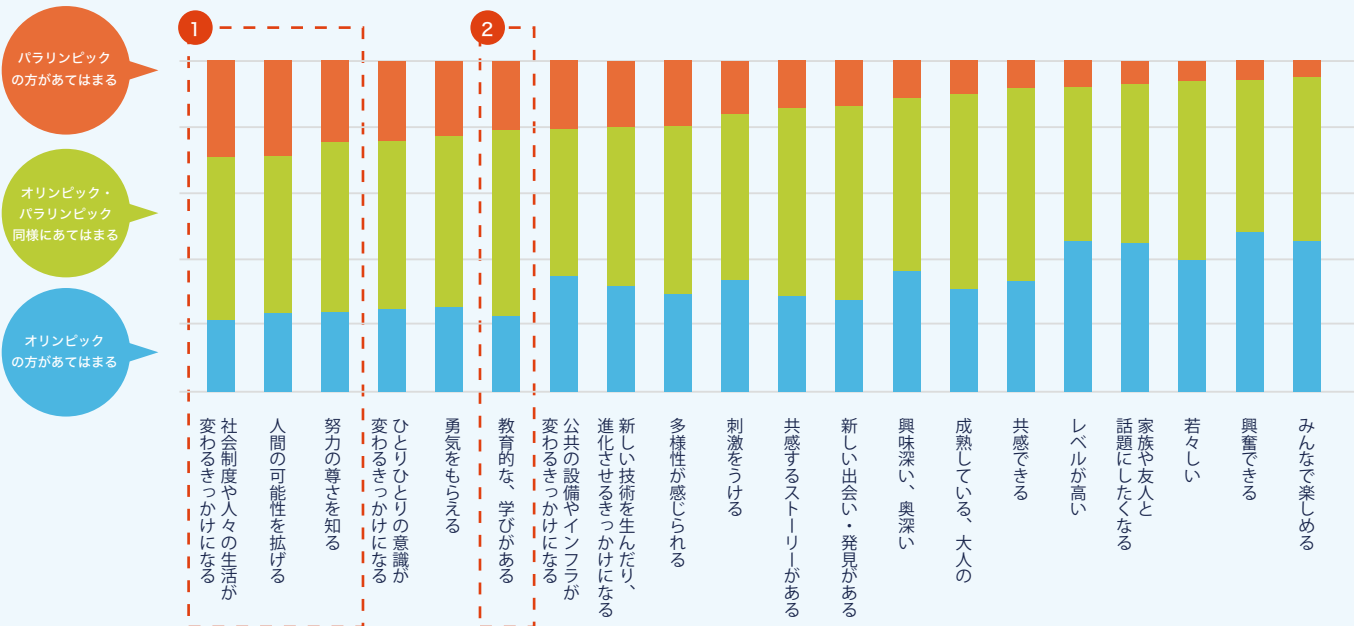


社会制度や世間の意識が変わるきっかけとなるように期待している

2



オリンピックもパラリンピックも子どもの教育に良い影響を与えていると考えている



Q

パラリンピックについての見方・お考えとして、それぞれあてはまるものをお選びください。



障がいのある方にとって希望(目標)になる

72.6%



スポーツとしての魅力が伝わっている

53.0%



国民の意識向上に貢献する

52.6%



企業の発展を促す良い機会となる

40.4%



世の中に広く浸透している

32.2%



競技・選手の情報積極的に発信されている

32.0%



障がいのある方のため大会で健常者には関係ない

15.6%

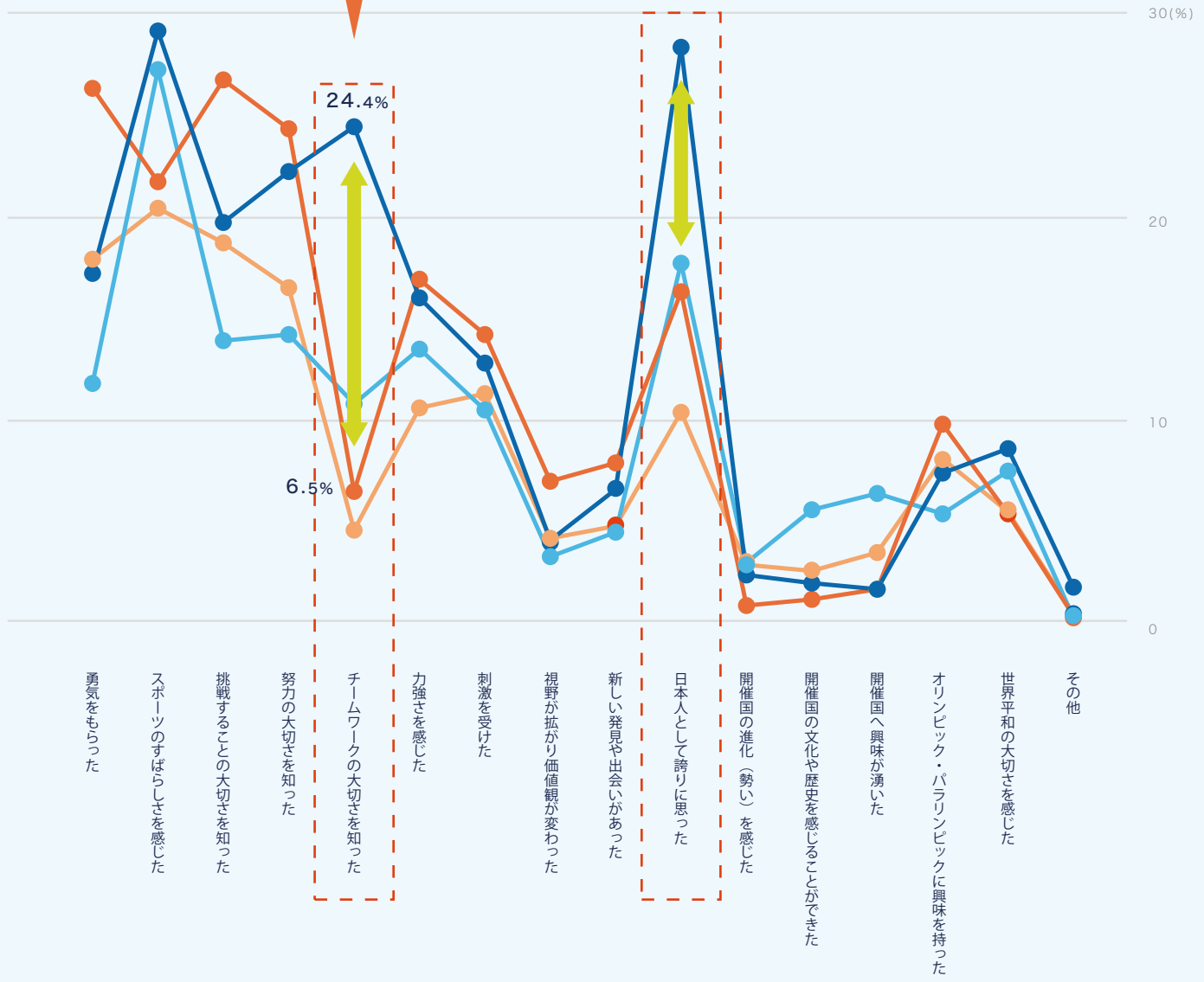
6

“チームスポーツ”や“自分の代表”
というイメージが低い、に課題。

オリンピック・パラリンピックを観た人の気持ちの変化を比べると、「勇気をもらった」「挑戦することの大切さを知った」などの項目でパラリンピックの方が高い結果となりました。一方、「チームワークの大切さを知った」「日本人として誇りに思った」などは、オリンピックとパラリンピックで大きく差がひらいています。チームスポーツとしての面白さを広めていくことや、自分の代表だ、という意識を持ってもらうことが、今後のパラリンピックの課題のひとつと言えます。

Q オリンピック・パラリンピックをご覧になってどのような気持ちの変化がありましたか？

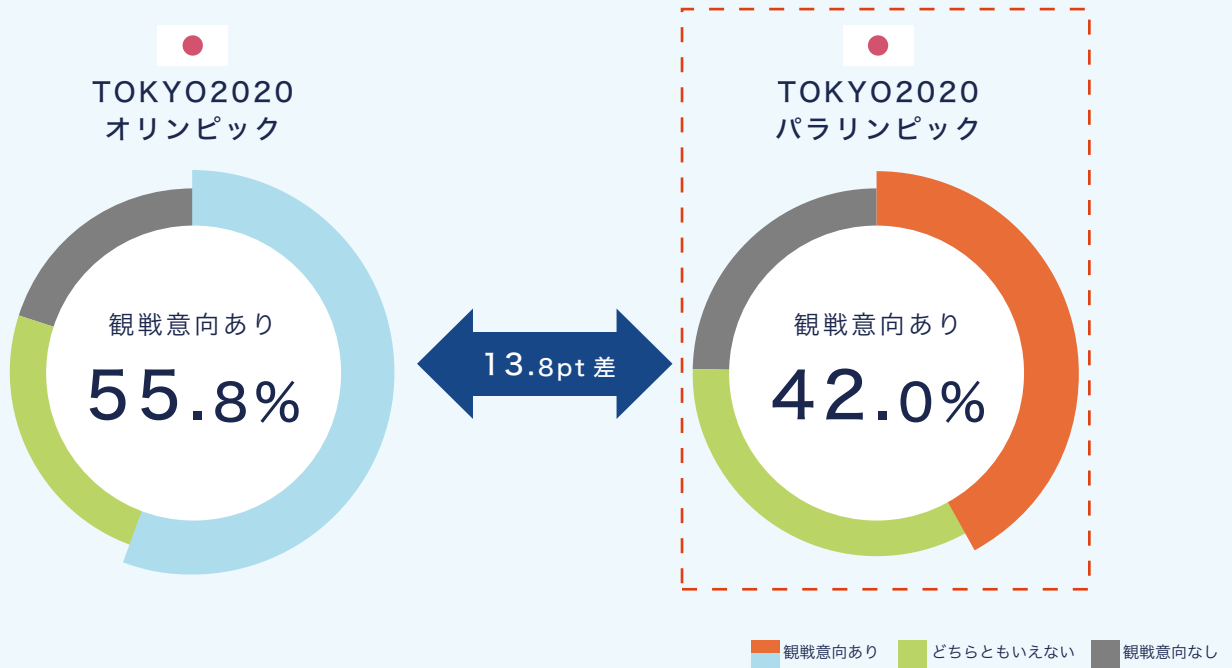
■ Rio2016 オリンピック ■ Rio2016 パラリンピック ■ 平昌 2018 オリンピック ■ 平昌 2018 パラリンピック



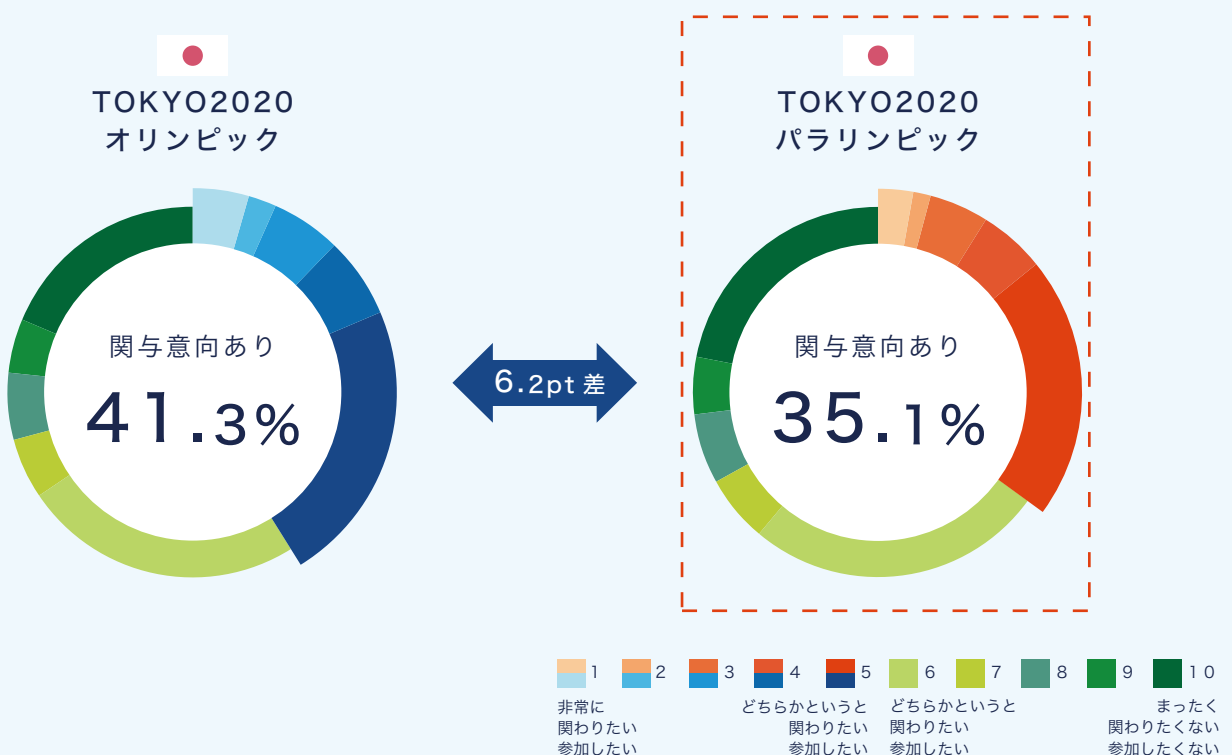
7 2020年東京パラリンピックへの意向は、 “観戦したい”は42%、 “関わりたい”と思っている人は35%。

2020年東京パラリンピックへの観戦意向・関与意向について、観戦意向は42.0%で、関与意向は35.1%でした。観戦意向は、オリンピック（55.8%）と13.8ポイントの差がありますが、関与意向はオリンピック（41.3%）と6.2ポイントの差。観ただけでなく、「関わりたい」という意識が高まるのも、パラリンピックの特徴です。

Q 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて、
観戦したいと思いますか？



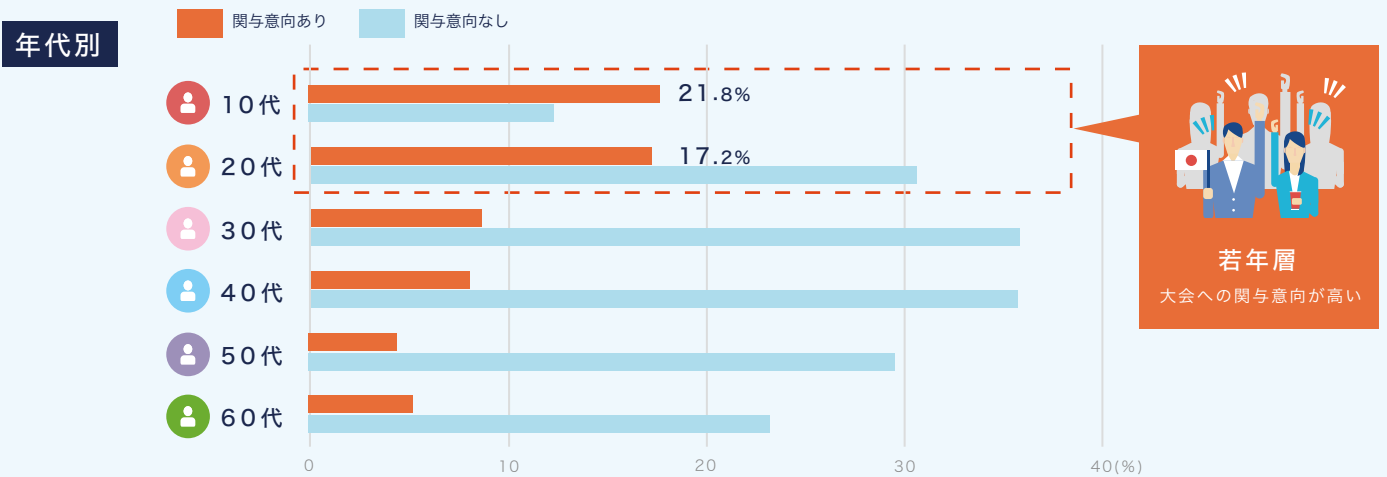
Q 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて、
何らかの形で関わりたい・参加したいと思いますか？



8 若い世代はパラリンピックへの関与意向が高い。

2020年東京パラリンピックに関わりたい理由を聞いたところ、年代別に視点が異なります。10代は、新しい出会いがある・発見に期待している様子。20代は「見ていて楽しそう」「スポーツとして楽しそう」など、エキサイティングな試合を求めている傾向に。30代は「見ていて楽しそう」「興奮を味わえそう」「一流のスポーツを見ることができそうだから」など、一流スポーツの盛り上がりを期待。40代は「興奮を味わえる」「感動や喜びがありそう」と、興奮や楽しさを期待。50代は「応援することが選手の頑張りにつながると思う」と、社会的意義を見出しており、60代は「感動や喜びがありそう」と、選手から勇気をもらっていました。各年代が、さまざまな形でパラリンピックに期待しているようです。

Q 2020年東京パラリンピックに、何らかの形で関わりたい・参加したいと思いますか？



Q 2020年東京パラリンピックに、何らかの形で関わりたい・参加したいと思うようになったきっかけ・出来事はなんですか？



9

一番人気は、車いすテニス！ 年代別に見ると、さまざまな競技に可能性あり。

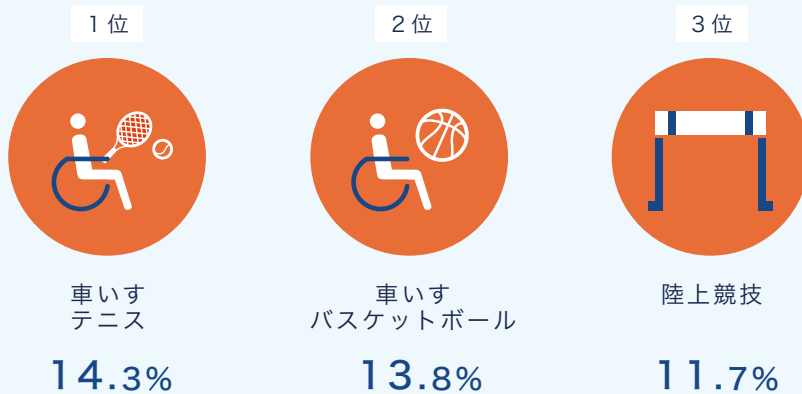
2020年東京パラリンピックで観戦したい競技は、1位「車いすテニス」14.3%、2位「車いすバスケットボール」13.8%、3位「陸上競技」11.7%。年代別では、60代は卓球・水泳・陸上・柔道・ボッチャ・車いすテニスという認知度の高い王道競技を答えた人が多くいました。

一方で、10代や20代は、射撃・カヌー・テコンドー・馬術・ウィルチェアーラグビーといった競技にも幅広く興味を持っているようです。

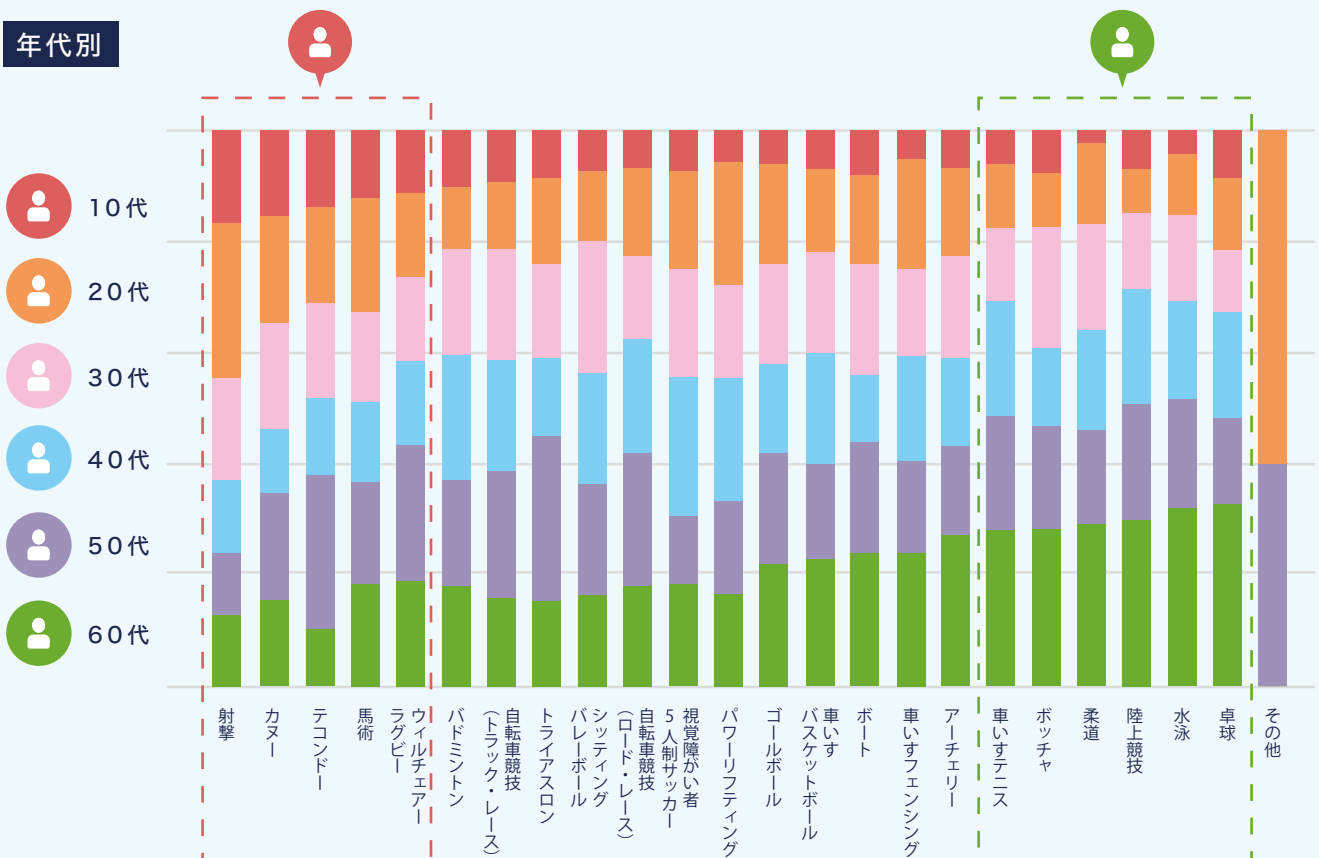


2020年東京パラリンピックで実施予定の競技の中で観戦したいものはなんですか？

観戦意向競技 TOP3



2020年東京パラリンピックで実施予定の競技の中で観戦したいものはなんですか？



パラリンピックは、スポーツとしての楽しさや感動だけでなく、社会や人に変化のきっかけを与えてくれる大会と期待され、観戦者や関与度の高い人が増えているようです。

2020年東京パラリンピックまであと2年。これまで触れたことのなかった人たちにも、競技会場や中継で、パラスポーツの試合を観たり、競技や選手について知ったり、触れ合ったりすることが増えていくでしょう。一度見れば、その魅力に気づくパラリンピックやパラスポーツ。ますますファンが増えて、大きなムーブメントになっていくのが楽しみです。

調査方法	インターネット調査
抽出フレーム	マイティモニター
調査地域	全国
調査対象	15-69歳の男女
除外条件	マスコミ関係 / 広告関係 / 市場調査関係に従事している方を除外
回収目標数・セル設計案	3,000s ※性年代・エリアで母集団準拠回収
調査期間	2018年3月23日(金)~3月26日(月)
調査実施機関	株式会社インテージ